

## 高等学校・地域における日本語指導・支援に関するヒアリング

兵庫県立湊川高等学校

報告者 前川裕史（校長）

## 1 学校・団体の概要

学校・団体名	兵庫県立湊川高等学校
制度上の特徴	学校の場合 課程 (定時制) 学科 (普通科) 単位履修制度 (学年制 ※日本語指導は特別な教育課程を編成し最大 21 単位を卒業単位として認める)
住所	神戸市長田区寺池町 1-4-1
代表・連絡先	校長 前川 裕史 TEL 078-691-7406
ウェブサイト等	<a href="https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/minatogawa-hs/NC3/">https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/minatogawa-hs/NC3/</a>

## 2 指導・支援対象の生徒について

- (1) 人数 3人
- (2) 言語文化背景 ベトナム語・中国語・ネパール語
- (3) 滞日期間 11年・3年・1年
- (4) 来日理由（在留資格も含めて） 家族滞在

## 3 指導・支援体制について

- (1) 外国人生徒等の教育／支援に携わっている方の指導・支援内容・立場・人数  
日本語指導は本校の教員が担当(日本語教員免許保有) 臨時講師、1名  
日本語指導の支援・補助 特別非常勤講師 1名
- (2) 組織内・外の指導・支援の仕組み・組織  
校内に日本語指導コーディネーター 3名、日本語教育推進委員会を設置  
神戸定住外国人支援センター(KFC)と連携し、日本語支援コーディネーターを派遣

## 4 ご報告くださる取り組みについて

- (1) 目的 日本語指導における人材確保について
- (2) 取り組み 実施期間、内容、  
本校は外国人特別枠選抜制度がない学校であり、いわゆる「枠校」でない学校が日本語指導を実施するにあたり大きな課題があることを報告したい。  
本校は定時制普通科の高等学校であり、中学校において不登校等の理由で十分な学習成果を修めることができなかった生徒が多い。特に外国籍等海外にルーツがある生徒で日本語能力が不十分なため、授業についていけず生徒が途中で退学することが多いという課題がある。そこで、令和6年度から特別な教育課程を編成し日本語指導を実施する。令和5年度8月から日本語指導実施に向け職員研修の実施、内規を作成し校内組織を作った。対象生徒のアセスメントを実施した。日本語指導ができる教員の確保のために県教育委員会と協議を重ねた。結果的に、県から人的な支援を受けることができなかった。
- (3) 成果と課題  
成果として日本語指導の実施に向け校内の体制を整えることはできた。その結果、本校で日本語指

22024年3月16日

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット（ユニットC）

文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究」事業  
導を受けることを希望する外国籍の生徒が受験することになった。

課題は、日本語指導ができる人材の確保である。兵庫県では外国人生徒のための学習支援事業として、県立高等学校において特別枠選抜を5校で実施し各校3人計15人を募集している。これらの学校は県から資金的・人的な支援がある。一方、本校は日本語教員の免許を持つ現場の教員が日本語指導を担当するが、県から資金的・人的な支援を受けることはできなかった。理由は予算が見つからないということであった。そこで、非常勤講師(会計年度任用職員)として教員免許を持つ日本語教員を探したが、確保することができなかった。現場では正規や非常勤を含め深刻な人材不足に直面している。今後、日本語指導を必要とする生徒の増加が予見されるが、これを支える日本語指導ができる人材の確保が急務である。

※当日は別に補足資料を用意します。